

# ネットワーク堀

第48号

平成29年2月10日

発行

大正地区福祉  
推進協議会

## 平成二十九年 年頭にあたって

大正地区福祉推進協議会会長 河谷 寅 夫

新年明けましておめでとうございます。

地区内の皆様におかれましては、お健やかに新年をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

また平素は大正地区福祉推進協議会の事業推進並びに諸活動に対し、各種団体の皆様、区民の皆様方には「深いご理解とご協力」を賜り、心より感謝とお礼を申し上げます。

さて、地域社会の高齢化が急速に進む一方で少子化が進行していくという状況に加え、地域の結びつきや家族の絆が年々希薄化しつつある昨今、「児童虐待」「高齢者虐待」「孤独死」など、生活に密着した深刻な問題が社会の中で増えつつあります。

こうした中『住民を主体とする地域福祉の推進』がますます大切となっております、地域全体で共存し支え合う体制を創りあげていくことが近々の課題であると痛感いたします。

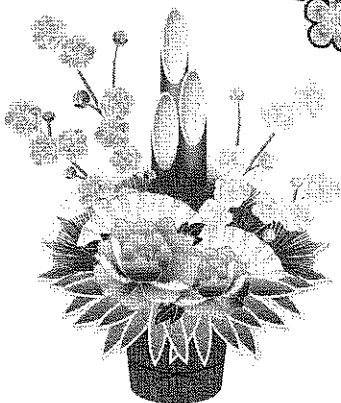
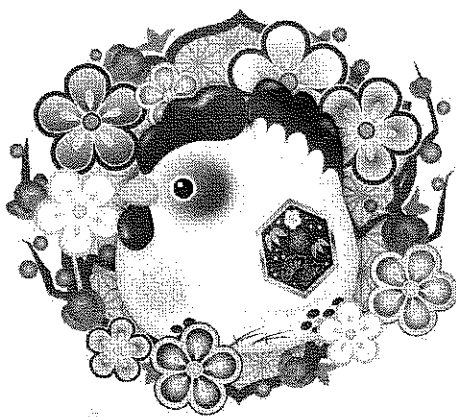
さて、昨年は対象者の方に福知山市社会福祉協議会発行の「みらいノート（私たちの生き方）」を配付させていただきました。いつまでも自分らしく生きるため、また自分の人生の振り返り・見つめ直しの一助になれば幸いです。

私たち大正地区福祉推進協議会に求められる役割も一層

重要になっていると考えております。支え合う地域づくりに向けて、福知山市は平成二十九年四月から新しい総合事業として「介護予防・日常生活支援総合事業」など、地域全体で高齢者の生活を支える多様なサービス事業を進めてまいります。

今後は市役所内にある『地域支援包括センター』とも研修会や情報交換の連携を密に実施しながら、区民の皆様がより安心な日常生活を送れますよう、役員一同全身全霊で努力していく所存であります。

どうか本年も更なるご指導・ご協力の程宜しくお願いいたします。



## 災害に強いまちづくりを目指して

福知山市消防団大正分団分団長 芦 田 直 也

日頃は、我々大正分団の活動にひときわご支援・ご協力いただき誠にありがとうございます。

おかげさまで先年の福知山市操法大会において敢闘賞を受賞し、団員一同更なる消防技術の向上に勤しんでいるところです。

昨年は熊本地震やそれに続く大雨が起るなど、あの福知山 8 月豪雨を思い出す大きな自然災害が、いつどこで起るかわからない時代となっております。

8 月豪雨では、区民の皆様の中にも被災された方が大変多く出たことと改めてお見舞い申し上げるところですが、我々消防団も多くの団員が被災する中、自宅の被害もありながら大堀区のために奮闘しました。

こんな時こそ、これも一つの教訓とし、地域一丸となって『災害に強いまちづくり』を目指し、消防団員の増員も含め、我々も益々頑張っていきたいと思っております。

さて、我々消防団はそうした水害対策もそうですが、防火活動や人命救助に関わる活動も行っております。

毎年 7 月の大正小学校 P T A 主催の「応急救急訓練」では消防署と共に我々消防団も講師として参加しました。

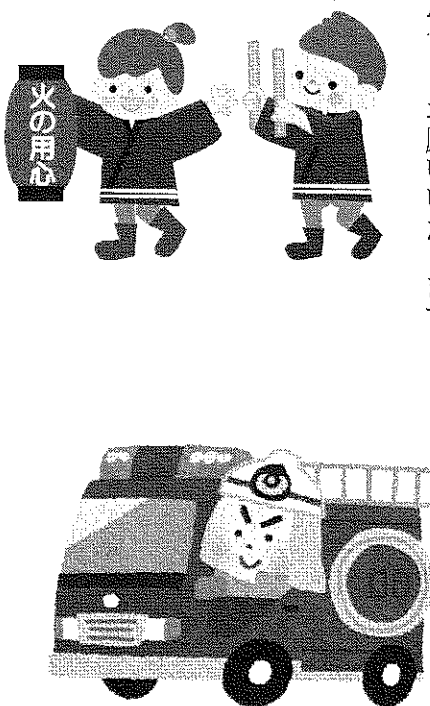
救急車が来るまでの応急救急を知っているのと知らないのでは、また、やってみるのとしないのでは大きな違いが出ます。そうしたイザという時のためにも、また機会がありましたら区民の皆様も積極

的に研修会などにご参加いただければと思います。

今後も消防団は自治会などと協力しながら活動していきませんが、普段から皆さんと訓練等でふれあう事で、イザという時の大きな力になるのだと感じるところです。

団員数が減少の一途をたどっている今こそ、改めて地域と消防団が一体となった地域力の再構築について共に考えていく必要性を感じています。出来るだけお互いが交流を深め、日々の中から「防災防火」「地域の活性化」といった取組みを通し、幅広く地域の皆さんとつながっていきながら今後も活動していきたいと思えます。

今後とも宜しくお願いいたします。



## 民生児童委員を振り返って

堀口 前民生児童委員 土 永 豊 彦

謹んで新年のお祝いを申し上げます。

この度任期満了により、平成二十八年十一月末日をもって民生児童委員を退任いたしました。

昭和六十二年に委嘱を受け、ここまで長期にわたり民生児童委員として勉めてまいりました。その間、諸先輩委員様にはご指導いただき、また共に活動した民生児童委員様をはじめご支援・ご協力賜りました関係機関の皆様にご心より感謝申し上げます。

近年急速に少子高齢化が進む中、「単身世帯の増加」「地縁・血縁関係の希薄化」などにより民生児童委員の抱える問題も多種多様となっております。

高齢者の孤立防止・子育て支援等々、民生児童委員としても多くの問題を抱え対応が困難という現実があります。地区福祉推進協議会が要となり地域全体で支える力の再構築が必要ではないかと思えます。

『共に支え合い、共に幸せを生きる地域づくり』

本年は民生児童委員制度百周年になります。昨年十一月の一斉改選により新任委員を迎えそのスタートの年。関係機関や地域組織との連携や協力体制の強化に努められ、地域福祉の推進役また関係機関とのパイプ役として益々ご活躍されますことを祈念申し上げます。

結びに皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈りいたしますと共に民生児童委員に対してご理解・ご支援を宜しくお願い申し上げます。

## 『ネットワーク堀』いかがでしたらうか？

東・南小谷ヶ丘 前民生児童委員 三木 まゆみ

若者の活字離れもさることながら、私たちの年代もやはり携帯電話・ネットワークの普及により、読むこと書くことの遠ざかりが社会現象

になりつつあります。

そんな中、まもなく第五十号を迎える『ネットワーク堀』があります。大正地区福祉推進協議会より毎年2月と8月の2回、全戸配付の発行が続けられています。

編集会議を持ち、原稿依頼から始まり校正までを担当委員で行います。原稿依頼をお願いされた方の中には、頭をひねりながらもスラスラと筆を進められている方もいると思います。苦手と思われる方も射る文章を仕上げてひと苦労された事がわかります。

今回、数年にわたり担当委員に携わってきた数名の方が当協議会の任期を終えることになりました。

当初私は『ネットワーク堀』の存在もうっすら知る程度でした。今思うと何んと失礼な事だったのかと反省しております。

この存在を沢山の方々を知っていたく事だと思いましたが、一人でも多くの方に何んらかの形で参加していただく事だと思えました。大正地区の様々な団体の方々に多くの声を聞かせていただき、それを地区の皆様にお届けする事が大切です。この名称の通り「ネットワーク」で大正地区を繋げる事が、この機関誌の意味するところだと思えます。

平成二十八年十二月一日より一部新しい役員にバトンタッチです。今まで皆様には原稿依頼等ご協力いただき大変お世話になりました。本当にありがとうございました。

『ネットワーク堀』が末永く大正地区の皆様様の活力の一部となりますよう望んでいます。



## 民生児童委員交代のお知らせ

平成二十八年十二月一日付で大正地区の民生児童委員が一部交代されています。

退任なされた民生児童委員さんにおかれましては長年にわたり日々ご尽力いただき誠にありがとうございます。また新任の民生児童委員さんにおかれましては、地元の為にまた大正地区全体の福祉の為に活躍いただけますよう宜しくお願いいたします。

### 【新任委員】

- 荒木・森垣・高畑担当 野口 俊子 (荒木)
- 荒木・森垣・高畑担当 大西いずみ (森垣)
- 水内担当 横山 眞弓
- 本堀担当 佐藤 昌良
- 南本堀担当 藤原 勲
- 蛇ヶ端担当 藤田喜美子

### 【留任委員】

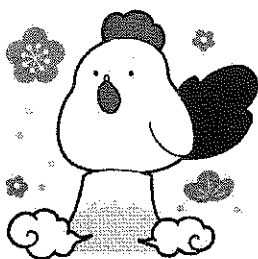
- |              |       |                   |       |
|--------------|-------|-------------------|-------|
| ◆ 荒木・森垣・高畑担当 | 塩見 榮子 | ■ 日吉ヶ丘担当          | 細見 玲子 |
| ◆ 水内担当       | 植村 篤子 | ■ 水内担当            | 蒲 たま美 |
| ◆ 本堀担当       | 三薺 郁代 | ■ 野家担当            | 高橋久美子 |
| ◆ 南本堀担当      | 片山 洋美 | ■ 西小谷ヶ丘担当         | 横岡 智子 |
| ◆ 東・南小谷ヶ丘担当  | 三木まゆみ | ■ 北小谷ヶ丘担当         | 青田恵津子 |
| ◆ 内田町担当      | 足立 洋子 | ■ 東堀担当            | 永田 博  |
| ◆ 堀口担当       | 土永 豊彦 | ■ 主任児童委員 (大正地区担当) | 中川 豊  |
| ◆ 蛇ヶ端担当      | 岡田美奈子 |                   |       |

## 編集後記



新しい年を迎え「ネットワーク堀」も第四十八号の発行となりました。

今号から民生児童委員の交代で編集委員もほとんど入れ替わってしまいました。右も左も分からない発進とはなりませんが、諸先輩の築かれた歴史を汚さないよう頑張つて行きますので、どうか温かい気持ちで見守つていただけますようお願い申し上げますと共に建設的なご意見をいただければ幸いです。



(平成二十九年一月現在)